

漁況予報 いわし

第128号

2005年3～4月漁期
(2005年3月11日発行)

＝ 概況 ＝

【まいわし】

主要定置網における1月のマイワシ総漁獲量は、12トンで前年同期の2トンを上回る漁獲量となりました。各定置網とも、中羽マイワシ(17～18cm)主体に大羽マイワシが少し混じる魚種組成となりました。

2月に入ると、漁獲水準は落ちて総漁獲量も1トン程度に留まりました。

佐島地区のまき網も、まとまった来遊がなかったことから、2ヶ月を通して漁獲はありませんでした。

本県漁業調査船「江ノ島丸」の伊豆諸島におけるサバ調査で、大羽マイワシが散見されているようです。産卵のため集群しているものと思われます。

【かたくちいわし】

主要定置網における1月のカタクチイワシ総水揚げ量は、270トンで昨年同期(50トン)を大きく上回り、1月としては異例の水揚げ量となりました。これは、西湘地区で160トンもの漁獲を記録したことに起因するところが大きいです。黒潮大蛇行による暖水波及が相模湾西部へ断続的に発生していることが要因と思われます。

2月も西湘地区の130トン筆頭に、計200トンを超えました。

魚体は2ヶ月とも11-12cm台の小型～大型成魚が主体でした。

佐島地区のまき網は、断続的に餌イワシとして漁獲しました。

【しらす】

1月～3月10日まではしらすの禁漁期間中ですが、当所では横須賀市長井～平塚地先にかけて特別採捕許可による試験操業を実施しました。

昨年の調査では、1月にマシラスの群れを発見することができ、その後のマイワシ漁へと繋がる情報を得ることができましたが、今年はまとまったマシラス群を見ることはできませんでした。

漁獲物はカタクチシラスが主体でしたが、採集量そのものが非常に少なく、私が行った5回の調査の中で最低水準で終漁しました。

しかし、2月の下旬から3月の調査においては、相模湾東側の数地点で表層(水面～水面下5m)にしらすらしき反応を見ることができました。さより曳網漁業でも時々シラスが網に引っかかっています。これらのことから、まだ頻度は低いと考えられますが、産卵が始まっているのではと思われます。

また、黒潮は、昨年の直進型と違い蛇行型で推移しておりますので、沖合海域からのシラスの加入にとっては、良い海況と思われます。

昨年、極度に不振だった相模湾の春シラスですが、今年は少しでも多くのシラスが漁獲できることを期待したいところです。

＝ 予報 ＝

まいわし

今漁期は、中羽イワシが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の水揚げ量は、約10トンと予測されます。

* 縦軸：主要定置網+まき網の水揚げ量

かたくちいわし

今漁期は、小型成魚及び大型成魚が漁獲の主体となります。

今漁期の漁獲量は、約870トンと予測されます。

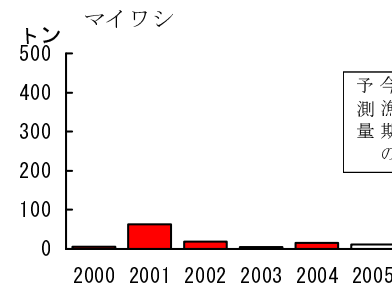
しらす

今漁期は、春生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。

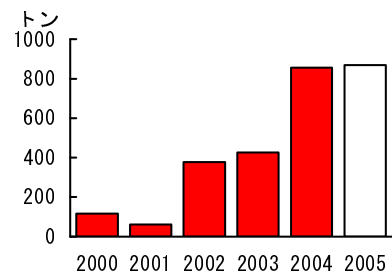
試験操業の結果及び大型成魚資源量指数値からして、3月中はマシラス中心に散発的、4月中旬以降、徐々にカタクチシラスの来遊が始まると思われます。

今漁期の漁獲量は、約100トンと予測されます。

過去5年の3・4月漁期の漁獲量
と今漁期の予測量



カタクチイワシ



しらす

